



# 2024年3月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

2023年8月9日

上場会社名 大和自動車交通株式会社

上場取引所 東

コード番号 9082 URL <https://www.daiwaj.com/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 大塚 一基

問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役専務執行役員管理本部長 (氏名) 齋藤 康典

TEL 03-6757-7164

四半期報告書提出予定日 2023年8月9日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 2024年3月期第1四半期の連結業績(2023年4月1日～2023年6月30日)

### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第1四半期	4,548	5.8	0	98.3	19	71.1	5	89.1
2023年3月期第1四半期	4,297	23.5	46		66	12.0	50	40.8

(注) 包括利益 2024年3月期第1四半期 88百万円 (178.9%) 2023年3月期第1四半期 31百万円 ( 50.7%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第1四半期	1.28	
2023年3月期第1四半期	11.97	

### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年3月期第1四半期	28,931	9,542	32.8
2023年3月期	29,153	9,471	32.3

(参考) 自己資本 2024年3月期第1四半期 9,496百万円 2023年3月期 9,425百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期		2.00		4.00	6.00
2024年3月期					
2024年3月期(予想)		4.00		4.00	8.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2024年3月期の連結業績予想(2023年4月1日～2024年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	9,000	4.9	90	73.6	140	23.1	90	14.8	20.86
通期	18,200	2.3	200	147.7	250	27.3	160	10.0	37.09

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
以外の会計方針の変更 : 無  
会計上の見積りの変更 : 無  
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2024年3月期1Q	5,250,000 株	2023年3月期	5,250,000 株
期末自己株式数	2024年3月期1Q	936,241 株	2023年3月期	936,191 株
期中平均株式数(四半期累計)	2024年3月期1Q	4,313,771 株	2023年3月期1Q	4,226,062 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等は、四半期決算短信(添付資料)3ページ「1.当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予想情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(セグメント情報等) .....	8
(重要な後発事象) .....	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響から正常化へ向けて加速し、インバウンドや国内回帰、賃上げによる消費拡大が続いているものの、地球温暖化による自然災害、半導体不足による物資の不足等により生活必需品の値上がりが見込まれない現状であります。

このような経済環境のなか、当社グループにおいては、すべての人の健康と安全を最優先に、新型コロナウイルス感染再拡大防止に最大限留意しながら、将来のモビリティのサービス化(MaaS)やAIの活用、自動運転分野の更なる発展による事業構造の大きな変化の流れに対応していくため、2022年度を初年度とする3ヶ年中期経営計画「中期経営計画2024」の第2期目を推進しております。

当第1四半期連結累計期間の連結業績は、主要事業である旅客自動車運送事業部門において、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う外出自粛やテレワークの浸透等で減少していた利用客が前期に比べ戻りつつあることに加え、2022年11月に実施いたしましたタクシー運賃の値上げ効果から、売上高は4,548百万円(前年同期比5.8%増)となりましたが、人件費の増加や採用活動に伴う宣伝広告費の発生、また販売事業部門における原材料価格高騰による材料費の増加などから営業利益は0百万円(前年同期比98.3%減)、経常利益は19百万円(前年同期比71.1%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は5百万円(前年同期比89.1%減)となりました。

報告セグメントごとの経営成績は、次の通りであります。

#### ① 旅客自動車運送事業部門

タクシー部門では、新型コロナウイルス感染症拡大の影響も一段落し、お客様における社会経済活動の正常化が進んだこと、また更なるサービスの向上や乗務員の労働環境の改善を図るため2022年11月より東京都23区、武蔵野市、三鷹市におきまして運賃の値上げを実施いたしましたことにより、売上高は2,620百万円(前年同期比14.7%増)となりました。採用面では、新卒、中途問わず引き続きホームページ、SNSの活用や北海道を中心としたテレビコマーシャルの放映、大学訪問等の積極的な採用活動を実施し、入社後のフォローアップ、上場会社の安心感、福利厚生充実等を説明し、一人でも多くの乗務員獲得に向けて注力しております。また、少子高齢化等による人手不足解消のために多様化するライフスタイルに合わせた働き方改革で乗務員のパートタイム制を導入いたしました。輸送においては、飛沫感染防止ボード、低オゾン発生器、空気清浄モニターの設置、車内除菌作業を行い、ニューノーマルタクシー化を進め、お客様に安心・安全・快適な車内空間の提供を心掛けております。また、車窓モビリティサイネージサービス「Canvas」に対応したタクシーの運行やラッピングタクシー等により車両広告の拡販及びビジネスの推進を行いました。広報としては、地域の保育園児とラッピングタクシーとのふれあいイベントを企画開催し業界紙やホームページを通してPR活動を実施いたしました。タクシー車両に興味を持ってもらい、タクシー乗務員の存在、運転の楽しさ等を伝え、憧れられるような職業として認知されるよう今後も未来の乗務員達に向けてもアピールしてまいります。環境面では、世界共通の課題であるカーボンニュートラル実現に向けて、温室効果ガス削減のために電気自動車を多摩地区にて5台導入し稼働しております。人だけではなく環境にも配慮できる企業として認識されるべく今後も注力してまいります。また、2023年4月より十全交通株式会社(本社：東京都府中市)と業務提携を結び、北多摩交通圏への大和ブランドの浸透と信頼獲得へ向けグループ一丸となって、より一層のサービス提供を心掛け、選ばれるタクシーとして邁進してまいります。

ハイヤー部門では、お客様における社会経済活動の正常化が進んだことによりハイヤー需要が高まったことに加え、福祉輸送部門においても新規顧客獲得による売上貢献があり、ハイヤー部門全体での売上高は698百万円(前年同期比1.8%増)となりました。経費面では、新規入社乗務員の募集費や採用乗務員の研修費の増加、並びに燃料費の単価上昇により増加したものの、ハイヤー事業は、回復基調が進み黒字化を実現できました。乗務員教育の面では、新人乗務員指導係及び職員による教育マニュアルの整備と同乗教育を行い、乗務員未経験者に対する教育体制を充実させハイヤー乗務員としてのレベルの向上に努めました。環境面においては、SDGs達成に向けてエコドライブの推進・実施による燃料消費量・温室効果ガス削減に取り組んでおります。

以上の結果、タクシー部門とハイヤー部門等の旅客自動車運送事業売上高は3,318百万円(前年同期比11.7%増)、営業利益は43百万円(前年同期比7.6%増)となりました。旅客自動車運送事業の最重要課題である乗務員確保、高齢化社会の到来に伴い多様化する生活サポート・福祉関連ニーズの高まりに応えるため、大和グループの総力を挙げ、「安心・安全、おもてなし」の更なる向上に努めてまいります。

## ② 不動産事業部門

不動産事業部門では、引き続きテナントの要望に沿った施設の改善に努めるとともに、大手仲介不動産会社や各物件所在地元不動産会社と継続して積極的な情報交換を実施し、事業収益の増強に取り組んでおります。また、所有物件において大規模外壁美化工事と共用部のLED化を行いました。不動産価値を高めるために今後もリノベーションやリフォームを積極的に実施し維持してまいります。

以上の結果、不動産事業の売上高は238百万円（前年同期比2.3%増）、営業利益は130百万円（前年同期比1.7%減）となりました。

## ③ 販売事業部門

自動車燃料販売部門では、新規得意先開拓等の顧客営業を強化、仕入コストの見直しや新型コロナウイルス感染症対策用品の販売を行うことで営業利益の確保に努めてまいりました。しかしながら、2021年秋から続く原油価格の上昇及び自動車燃料の需要が減少する等、厳しい状況が続きました。

金属製品製造販売部門では、原材料価格の高騰を受け鋼材仕入の増加が生じ、また主力商品であった集合住宅用標準外階段の生産高は外部設置という防犯上の観点から減少傾向にありますが、安定的な収益基盤の確立と営業利益の確保に向け、高利益率の見込める特注階段等の受注生産を積極的に展開いたしました。

以上の結果、販売事業の売上高は505百万円（前年同期比7.4%減）、営業損失は0百万円（前年同期は営業利益32百万円）となりました。

## ④ サービス・メンテナンス事業部門

サービス・メンテナンス事業部門では、ゴルフ場クラブハウスの清掃・設備管理をメインとした総合管理業務及び商業施設並びにホテルなどの清掃業務を主要事業としており、顧客との年間契約に基づき、ゲストの皆様にご満足いただけるための安全で清潔な最適環境作りを提供しております。メイン事業であるゴルフ場の利用動向につきましては、コンペ等の団体利用及びレストラン営業は新型コロナウイルス感染症の流行以降減少しているものの、個人利用客は大きな影響を受けておらず、むしろ来場者数は増加しております。そのためゴルフ場の設備更新の工事受注が増加いたしました。また従来からの取引先とは、一部契約の縮小がありましたが、積極的な新規顧客開拓の営業活動により、前年同期以上の利益を確保することができました。

以上の結果、サービス・メンテナンス事業の売上高は486百万円（前年同期比11.2%減）、営業利益は5百万円（前年同期は営業損失6百万円）となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間の総資産は28,931百万円となり、前連結会計年度末に比べ221百万円の減少となりました。これは税金の納付等により現金及び預金が253百万円減少する等の結果、流動資産が408百万円減少したこと等によるものであります。

負債は前連結会計年度末に比べ292百万円減少の19,389百万円となりました。これは支払手形及び買掛金が75百万円、賞与引当金が87百万円減少する等の結果、流動負債が207百万円減少したこと等によるものであります。

純資産は前連結会計年度末に比べ70百万円増加の9,542百万円となりました。これはその他有価証券評価差額金が81百万円増加したこと等によるものであります。

以上の結果、自己資本比率は前連結会計年度末の32.3%から32.8%に増加しております。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後の見通しにつきましては「重要な後発事象」に記載しております固定資産の取得による影響を含めて現在精査中であり、2023年5月15日付「2023年3月期 決算短信〔日本基準〕（連結）」にて公表いたしました業績予想を据え置いております。

今後の業績推移に応じて、修正の必要が生じた場合には速やかに公表いたします。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	7,104	6,850
信託預金	638	655
受取手形、売掛金及び契約資産	1,720	1,582
商品及び製品	87	98
仕掛品	34	32
原材料及び貯蔵品	81	84
その他	888	845
貸倒引当金	△16	△17
流動資産合計	10,540	10,132
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	5,259	5,228
土地	10,394	10,394
その他（純額）	1,361	1,444
有形固定資産合計	17,014	17,066
無形固定資産		
その他	66	63
無形固定資産合計	66	63
投資その他の資産		
その他	1,667	1,804
貸倒引当金	△135	△134
投資その他の資産合計	1,531	1,670
固定資産合計	18,613	18,799
資産合計	29,153	28,931

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	492	417
短期借入金	5,159	5,180
未払法人税等	51	33
賞与引当金	132	44
その他	2,366	2,318
流動負債合計	8,202	7,994
固定負債		
長期借入金	7,380	7,228
退職給付に係る負債	806	799
資産除去債務	296	296
株式報酬引当金	74	80
その他	2,922	2,989
固定負債合計	11,480	11,395
負債合計	19,682	19,389
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	525	525
資本剰余金	10	10
利益剰余金	9,646	9,634
自己株式	△953	△953
株主資本合計	9,228	9,216
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	221	303
繰延ヘッジ損益	△5	△4
退職給付に係る調整累計額	△19	△18
その他の包括利益累計額合計	196	279
非支配株主持分	45	45
純資産合計	9,471	9,542
負債純資産合計	29,153	28,931

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
売上高	4,297	4,548
売上原価	3,866	4,104
売上総利益	430	444
販売費及び一般管理費	383	443
営業利益	46	0
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	9	10
受取家賃	7	5
補助金収入	14	14
その他	22	20
営業外収益合計	54	51
営業外費用		
支払利息	34	32
その他	0	0
営業外費用合計	34	32
経常利益	66	19
特別利益		
固定資産売却益	0	22
特別利益合計	0	22
特別損失		
固定資産除却損	0	0
特別損失合計	0	0
税金等調整前四半期純利益	67	41
法人税、住民税及び事業税	17	34
法人税等調整額	△1	1
法人税等合計	16	35
四半期純利益	50	5
非支配株主に帰属する四半期純利益	0	0
親会社株主に帰属する四半期純利益	50	5



(四半期連結包括利益計算書)  
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
四半期純利益	50	5
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△22	81
繰延ヘッジ損益	3	0
退職給付に係る調整額	0	0
その他の包括利益合計	△19	83
四半期包括利益	31	88
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	31	88
非支配株主に係る四半期包括利益	0	0

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

## I 前第1四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	旅客自動車 運送事業	不動産事業	販売事業	サービス・ メンテナンス 事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	2,970	232	545	547	4,297	-	4,297
セグメント間の内部売上 高又は振替高	-	88	151	12	252	△252	-
計	2,970	321	696	560	4,549	△252	4,297
セグメント利益又は損失 (△)	40	132	32	△6	199	△153	46

(注) 1 調整額の区分は、セグメント間の内部取引に係る消去額であります。

2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

## II 当第1四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	旅客自動車 運送事業	不動産事業	販売事業	サービス・ メンテナンス 事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	3,318	238	505	486	4,548	-	4,548
セグメント間の内部売上 高又は振替高	-	110	141	14	266	△266	-
計	3,318	348	646	500	4,814	△266	4,548
セグメント利益又は損失 (△)	43	130	△0	5	178	△178	0

(注) 1 調整額の区分は、セグメント間の内部取引に係る消去額であります。

2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

## (重要な後発事象)

## 固定資産の取得

当社は、2023年8月9日開催の取締役会において、下記のとおり固定資産の取得を決議いたしました。

## 1. 取得の理由

本取得は、事業用収益物件を購入し、不動産事業の強化と更なる収益の増強を進めるためのものであります。

## 2. 取得資産の内容及び日程

(1)所在地	京都府京都市下京区
(2)資産の内容	土地、建物
(3)取得価額	2,150百万円
(4)契約日	2023年8月28日
(5)物件引渡日	2023年9月下旬(予定)

## 3. 相手先の概要

相手先につきましては、契約上の都合により、公表を控えさせていただきます。なお、相手先と当社との間には、資本関係、人的関係、取引関係、関連当事者として特筆すべき事項はありません。

## 4. 取得資金

本物件の取得資金については、金融機関からの借入れ及び自己資金を予定しております。

## 5. 今後の見通し

本物件の取得による当期の業績に与える影響につきましては、現在精査中であり、開示の必要が生じた場合には速やかに公表いたします。